

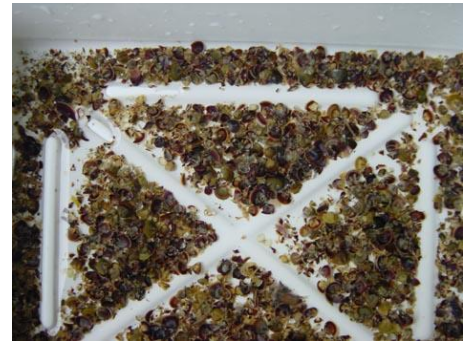
ヤマトシジミの食害 ①マルタウグイ (ジュウサンウグイ)

2006年6月14日に小川原湖の漁業者からシジミ稚貝が詰まったウグイ類 (マルタウグイと思われませんが、マルタウグイはその後ジュウサンウグイに和名が変わりました) の内蔵のサンプルが持ち込まれました。消化管の内容物を1mm目合いのフルイのなかで洗い出し、フルイに残ったヤマトシジミの貝殻のうち壊れていない貝殻を30個拾い出し、殻長を測定しました。また30個 (片側の貝殻のみ) の乾燥重量 (0.58g) と、フルイに残った貝殻総乾燥重量 (23.31g) から、おおよその個数を計算しました。食べられていたシジミの殻長は3.5mm~8.4mmで、殻の重量から約600個のシジミを食べていたことがわかりました。

6月14日の消化管から多数のシジミの殻が見つかったことを小川原湖漁協に知らせたところ6月20日に腹を触てみるとジャリジャリした感じがするマルタウグイがサンプルとして届きました。手で腹を触てみると明らかに貝殻の感触がありました。同じように消化管内から貝殻を取り出し、測定したところ殻長3.5~9.4mmのサイズでした。また殻30個の重量 (0.45g) とその他の殻重量 20.87g から消化管内の稚貝の数はおよそ700個体と推定されました。

マルタウグイは、小川原湖で数百トン水準で漁獲されており、多くの稚貝が食害を受けていると考えられます。また小川原湖の他、十三湖などシジミを産する水域では、マルタウグイも生息している場合が多く、シジミの主要な減耗要因の一つであると考えられます。

同時期に採捕されたマルタウグイの中には、胃内容物からシジミの殻が確認できなかった個体もあり、シジミを好んで食べる個体と食べない個体がいるのかもしれませんが。



消化管から洗い出した貝殻 (2006/6/14)



ウグイ類の消化管内の壊れていない殻

2006/6/14 小川原湖

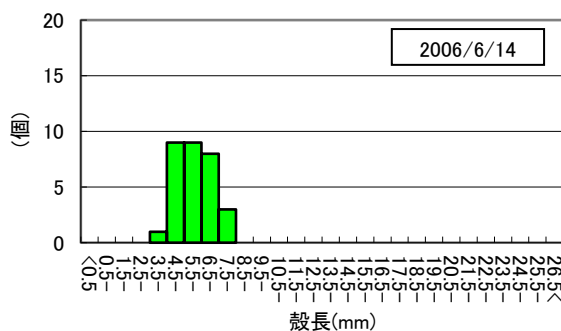


マルタウグイ 全長 38.5cm、体重 574g

(2006/6/20 小川原湖)

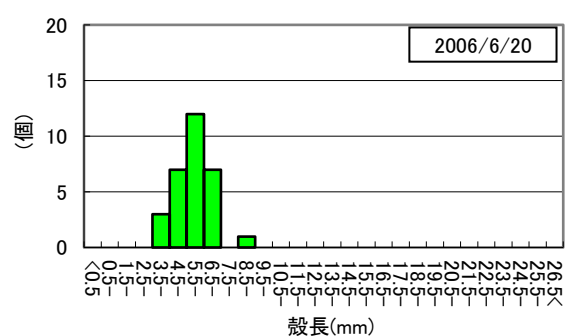


6/20 採捕マルタウグイの消化管



ウグイ類の消化管内ヤマトシジミ殻長組成

(小川原湖)



マルタウグイの消化管内ヤマトシジミ殻長組成

(小川原湖)